

開設3年経過した通所リハの認知症予防の実
際（第3報）前頭葉活性化を中心に

松本祥平¹⁾ 大谷章仁¹⁾ 植田浩次¹⁾ 井畑浩敏¹⁾
西 幸宏¹⁾ 宮島 千鳥¹⁾ 谷 正人¹⁾ 村田智恵²⁾
1) 聖志会 渡辺病院 2) ケアプランセンターわたなべ

医療法人聖志会渡辺病院

【はじめに】当院の通所リハビリテーションにおいても平成20年7月から高齢者の通所利用者に対して前頭葉を賦活する認知リハビリテーションを開始した。今回、開始後3年経過しており、参加者のデータを集積・分析し報告したい。【対象】現在、通所リハビリテーションには46名の方が週1回以上参加している。そのうち24～27ヶ月（26.5月間）以上継続している利用者7名（男性3名：女性4名）平均年齢78.9才（66～85歳）HDS-R平均 21.8 ± 4.1 、を対象とする。【方法】週1回もしくは2回、1回あたり3時間30分の作業療法士による認知リハビリテーション（休憩時間を含める）を行った。認知リハビリテーションの内容：①指体操 ②ひらがな並び替え ③条件しりとり④旗上げ等参加前と現在のHDS-Rの点数を算出し、ウイルコクソン符号付順位検定を用い有意な変化の有無を検定した。

【倫理的配慮】利用者には研究の主旨と個人が特定されないよう配慮を行う旨を口頭に伝え承諾を得た。また病院管理者、当院倫理委員会の承認を得た。

【結果】現在（平成23年3月31日）の改訂長谷川式簡易知能検査の平均点数 18.7 ± 5.6 点であり両者の間には有意な低下が見られた。（ $p = 0.041$ ）

【考察】昨年まで当学会で報告した第1報、第2報では統計学的に有意な変化はみられておらず、3年目の今回初めて有意な低下が見られた。しかしながら国立精神・神経センターの宇野らは、初期アルツハイマー型認知症のHDS-Rの年間自然低下率は、 $-1.5 \sim -2.5$ であったと報告しており、我々の年間低下率は、 -1.4 であることからわずかながら認知リハビリテーションがよい影響を示している可能性が示唆された。